

まとめ

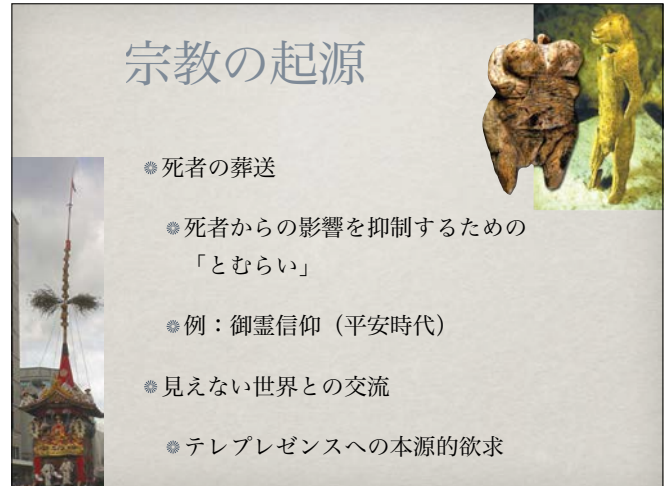
OVERVIEW

- 宗教の起源、信仰の形成・改革
- 宗教概念について——宗教のポリティクス
- 愛国心の倫理的パラドクス
- まとめ
- 新しい宗教性——アニメ、アニミズム、終末論

回顧 — 授業の構成

1	導入	
2-7	日本宗教の形成と展開	<p>(現代) 宗教の風景 (古代) 神々の世界 (古代) 仏教以前、仏教伝来：奈良仏教 (中世) 平安仏教を中心に：天台宗、真言宗、大衆宗教 (中世) 鎌倉仏教を中心に：浄土宗、浄土真宗、日蓮宗、禪宗 (近世) キリシタン、国学、復古神道</p> <p>Facts</p>
8-15	近現代における日本宗教	<p>宗教を規定する政治力学 近代日本における政教分離の形成 日本型政教分離の構造 一神教と多神教をめぐるディスコースとリアルポリティーク 宗教の多元化と多元主義 信仰の土着化とナショナリズムの相関関係</p> <p>Theories</p>

宗教の起源



- 死者の葬送
- 死者からの影響を抑制するための「とむらい」
- 例：御霊信仰（平安時代）
- 見えない世界との交流
- テレプレゼンスへの本源的欲求

日本宗教の起源

- アジア文化圏からの影響
- 地政学的なユニークさ

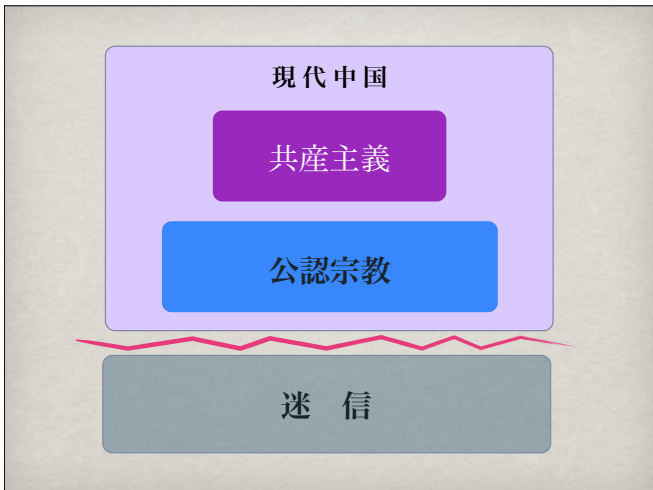
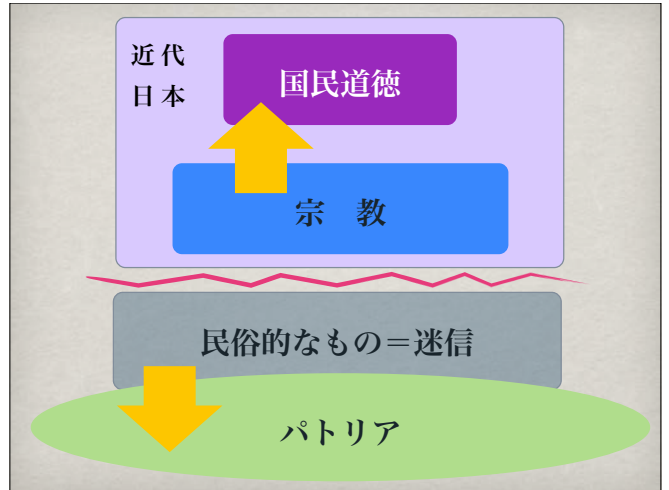


信仰の形成・改革

神話の神々
 阿弥陀如来
 大日如来
 浄土、等々

人間

恐れ（暴力性）
 死者、神々
 動物霊、自然災害
 疫病、等々



愛国心の倫理的パラドクス

● 「愛国心はそのなかに倫理的パラドクスをもっており、最も鋭い凝った批判でなければいかなる批判も受けつけないものである。そのパラドクスとは、愛国心は、個人の非自己中心主義が国家の利己主義に転化する、ということである。国家への忠誠心とは、もしより低い忠誠心や地方的利害などくらべるならば、それは高度な利他主義の形態である。(中略) このようにして、個人の非自己中心主義は、国家の自己中心主義を助長するのである」 (R. ニーバー『道徳的人間と非道徳的社會』1932年)。

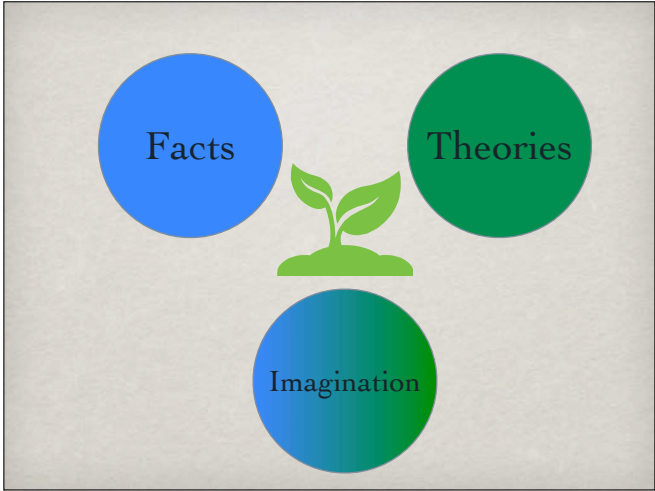
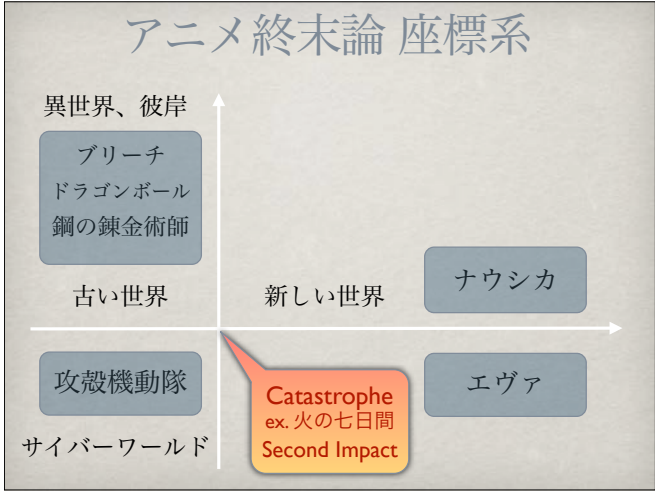
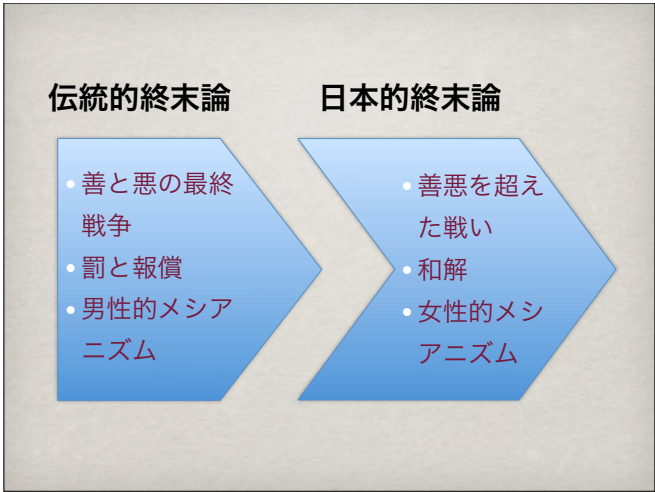
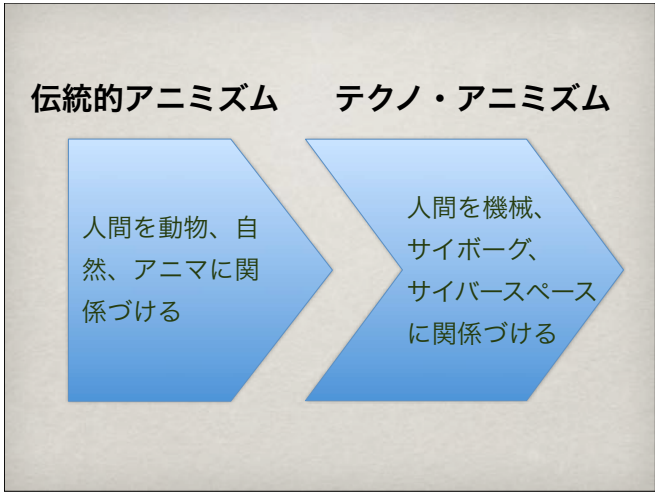
● → ナショナリズムと宗教

まとめ

- * 宗教は、人間の両極端を見極めるレンズの役割を果たしている。
- * グローバルな変化に冷静に対応していくためにも、日本社会の精神的土壌を知ることは重要。
- * 文化ナショナリズム (→リバース・オリエンタリズム) に陥らない日本文化・日本宗教に対する理解を養う。
- * 比較の視点が必要。

新しい宗教性

アニメ、アニミズム、終末論



【参考】新年度科目

●宗教学9「一神教とその世界を学ぶ——グローバル社会における平和構築のために」（春学期、金1、今出川）

●一神教の歴史や教義、一神教が影響力を及ぼしている世界の様子を知ることによって、グローバル社会における平和構築の手がかりを考察することを目的とする。